



第12回社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」
in 神奈川県横浜市



Agenda

#01

クラダシチャレンジとは

#02

活動スケジュール

#03

活動報告

#04

参加者の声

#05

事後報告会

#06

総括

#1. クラダシチャレンジとは

#1. 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは

社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは

地方創生やフードロス問題に興味がある学生が、人手不足に悩む地域・農家を訪れ、作業支援や交流を通して、地域課題やフードロスなどの社会課題について考える、社会貢献型インターンシップです。参加学生の旅費・交通費や現地での滞在費、食費等は、地域経済の活性化と社会発展に寄与するために設立した「クラダシ基金」から支援しています。

クラダシチャレンジ実施の目的

活動中: 未収穫品から新たな収益を生み出し、経済面で地方・農家を支えます。さらに、学生が現地を訪れることで町に活気をもたらし、地域の魅力をSNS等で発信することでさらなる発展のパワーに繋がります。

活動後: 学生が自治体や農家の方1人1人の温かみに触れ、地方・農業の魅力を体感することで、将来のキャリア選択を通して地域に貢献しようという意識が芽生えます。

#1. 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは クラダシ基金の概要

地域経済の活性化と社会発展に寄与するために
設立された支援金制度「クラダシ基金」



地方創生事業・フードバンク支援事業・教育事業・
食のサステナビリティ研究会の社会貢献活動に充てられます。

クラダシ基金とは

クラダシ自らが社会貢献活動を行うために
創設した基金で、ソーシャルグッドマーケット
「Kuradashi」上における寄付先の1つです。

地域創生事業やフードバンク支援事業、教
育事業、食のサステナビリティ研究会の社
会貢献活動に活用しています。

▼参考URL

クラダシ基金について

: <https://www.kuradashi.jp/fund>

#1. 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは 「クラダシチャレンジ」in 神奈川県横浜市の目的

①地産地消の推進

横浜市は、都市と農業が共存する「“農”のあるまち横浜」を目指し、「横浜都市農業推進プラン」を策定しています。横浜市の農業、農産物の魅力を発信することで、人々に地産地消について考えていただく機会を提供します。

②生産から消費までの流れに関わることで、学生に学ぶ機会を提供する

食べ物が食卓に届くまでの過程、都市農業が抱える課題について知ること、自分たちに密接にかかわる「食」に対して、何ができるのか考えていただきます。

③横浜市内にも畑があること、横浜市の農業についてより多くの方に知ってもらう

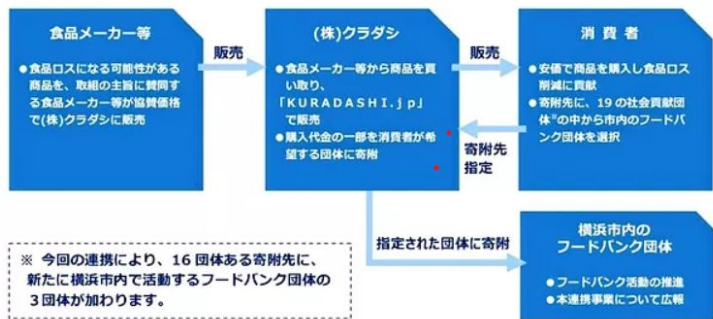
東京23区を除く全国の市区町村で最大の人口を誇る横浜市にも多くの畑があること、都市の農業は市民の食生活を支えるだけでなく、多くの業種と結び付いて地域経済にも貢献していることを知っていただくことで、農業をより身近に感じてもらうことを目指します。

第12回 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」 in 神奈川県横浜市

- 活動内容:①苗・植え、栽培、収穫、梱包、販売
 - ②イベントのお手伝い
 - ③横浜市役所でのマルシェの活動
- 開催期間:2022年2月～9月
- 参加人数:12人
- 実施企業:株式会社クラダシ (クラダシ基金にて運営)

#1. 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは

神奈川県横浜市クラダシチャレンジの概要



株式会社クラダシと横浜市資源循環局は、ソーシャルグッドマーケット「Kuradashi」を活用して横浜市内の食品ロス削減とフードバンク活動支援に取り組むため、公民連携の覚書を締結しています。

「Kuradashi」の仕組みを活用して市内食品メーカー等の食品ロスを削減するとともに、消費者が購入した代金の一部を市内で活動するフードバンク団体に寄附し、活動を支援するために取り組んでいます。

▼連携協定について詳しくはこちら

<https://corp.kuradashi.jp/news/20-02-07/>

#クラダシチャレンジ in 神奈川県横浜市

横浜クラチャレの特徴

①長期開催である

これまでのクラダシチャレンジは1週間程度と短期での開催であったのに対して、横浜市で開催しているクラダシチャレンジは8か月(活動は隔週土曜日)と長期で行っています。

②都市農業や地産地消に注目

都市での開催ということで、短期のクラチャレの目的である、地方の人手不足や高齢化が問題になっている農家さんの作業支援ではなく、都市農業や地産地消に目を向け、そこでのフードロス削減を目的としています。

Kuradashi

#2. 活動スケジュール

ある活動日のそれぞれのスケジュール

<矢野さん>

10:00 畑の間のシート張り

12:00 昼食

12:40 イベントのお手伝い

(サツマイモ掘り体験)

15:00 質疑応答

16:00 解散



<藤又さん>

10:00 オクラの収穫

11:00 ミニトマトの収穫

12:00 昼食

13:00 マルシェの打ち合わせ

14:00 オクラとミニトマトの袋詰め

16:00 解散



<土井さん>

10:00 マルシェで販売する商品の見学

11:00 アロエの苗植え

13:00 竹の割り箸作り

14:30 昼食

15:30 質疑応答

16:00 解散



#3. 活動報告

▶矢野さんの畑での活動

通常の畑の作業である、畑のシート貼り、果樹園の整備、台風の対策などだけでなく、矢野さんの農業の特徴である**イベントのお手伝い**（例えば、ヤマメのつかみ取りイベント、サツマイモの栽培・収穫体験など）も行いました。

矢野さんの畑で行われるいろんなイベントに参加して見えてきたことは、イベント参加者の方々の**ポジティブ**な反応や姿勢です。子ども達だけでなく、その親御さんたちもとても楽しそうに参加されていたのが印象的でした。

これらのことから、**イベント型農業は消費者の意識を変えうる有効な手段になると考えます！**

▼ヤマメの掴み取り体験



▼サツマイモ掘り体験



▼シート貼りの様子



▶ 藤又さんの畑での活動

オクラやミニトマト、ツルムラサキやさつまいもなどを収穫しました。また、玉ねぎやキャベツなどの種まきも行いました。

1番印象的だったことは、**トラクターを運転させていただいた**ことです。初めての経験で、なかなかできない貴重な体験をすることができました。

その他にも野菜の袋詰めを行いました。野菜は種まきや収穫だけでなく、出荷する最後の最後まで手間暇かけたものがお店に並ぶことを、肌で感じるすることができました。

▼ 収穫したオクラ



▼ 収穫したトマト



▼ 畑の様子



▶土井さんの畑での活動

竹林やヤーコン畑の整備、アロエの植え付け等の作業を行いました。土井さんは、肥料や水を与えずに野菜を育てる、**自然農法**に取り組んでいます。自然農法と聞いてどんなものができるんだろうと思いましたが、土井さんのヤーコンはとても美味しく、みずみずしかったです。

また、活動の中では、ドライヤーコンや畑で取れた野菜を使って料理をし、お昼ご飯に食べました。

その他にも、農家目線でのフードロスに関する話、自然農法の話、また土井さん自身の人生の話など、とても貴重なお話を聞くことができ、とても勉強になりました。

▼竹林を整備する様子



▼昼食作りの様子



▼竹で割り箸を作る様子



#4. 参加者の声

#4. 参加者の声①

畑での成長日記

今年の2月から、矢野さん、土井さん、藤又さんの御三方のもとで農業について学ばせていただきました。

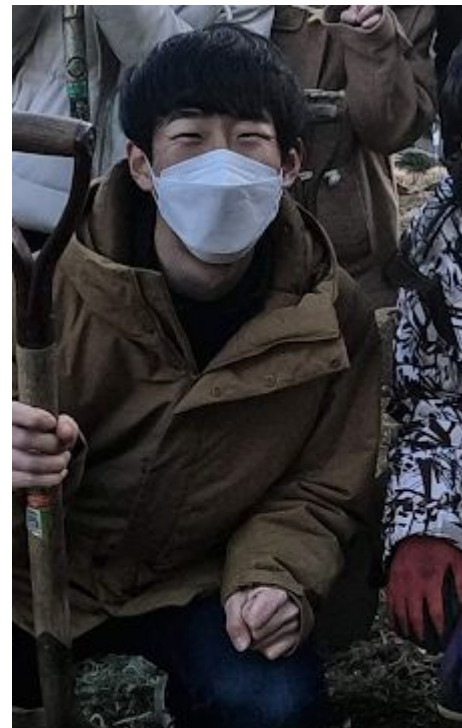
「農業」と一言と言っても農家さんごとに農法や考え方が異なることが自分の中の新たな発見となりました。

活動を始めた当初は、畑で農業がしてみたいくらいの考えでしたが、8ヶ月経った今では、農業界にはこんな問題がある、消費者の意識改革が食品ロスの削減に重要など、様々な社会課題に関心を持つきっかけとなりました。

また、自分自身でも新聞などのメディアを通じて社会問題について関心を持ち学ぶようになるなど、自分自身の成長に繋がった活動だったと、振り返って感じております。

そして、何かについて学ぶ際には、実際に自分の足を動かして現場を見ることの大切さを実感いたしました。ネットなどの情報では知ることのできない大きな価値が畑にはありました。

これまで貴重な経験や知識を提供してくださった、矢野さん、土井さん、藤又さん、本当にありがとうございました。



【関東学院大学4年 宇佐美大輔】

横浜市で体験した都市農業とその魅力

これまでの活動を振り返ってみて、野菜ができるまでの大変さを実感しました。また、活動の中の農家さんとの話の中でも多くの学びがあり、実際の体験からだけでなく、農家さんから聞いた話での学びもありました。食品ロスを学んでいたことがきっかけで参加したクラチャレでしたが、横浜市の農家さんの畑ではロスがほとんどなく、流通過程やその先のレストラン、家庭などで発生している問題であることが分かりました。そのため、これからも個人として食品ロス削減の行動を取っていきたいと思いました。改めてこれまでの活動を振り返ってみると、横浜市での開催であったためとても通いやすく、今までの農業に対してのイメージが変わったのも、今回のクラチャレが都市農業を対象としていたからではないかと思います。より多くの人たちにこういった魅力を知ってもらい、農業を体験してもらえれば、地産地消の促進や食品ロス問題の取組などにつながっていくのではないかと考えます。



【関東学院大学4年 池田裕太郎】

#4.参加者の声③

クラダシチャレンジでの学び

今回のクラダシチャレンジに参加させていただき、一番の学びだと感じたことは「畑からの食品ロスほぼゼロ」ということです。農家の方々から直接お話を伺う中で、畑から採れた B品と呼ばれる規格外の野菜は、土の栄養として土に戻すことでロスを出さない工夫が行われています。そのため食品ロスが発生する要因は、我々の生活での過剰切除や賞味/消費期限切れによる廃棄、飲食店での食べ残しなどであると、活動を通してより明確なものになりました。今回の学びを踏まえて食品ロスを削減するために、趣味の料理をする際にスーパーで買いすぎないようにするといった工夫をしています。



【関東学院大学4年 犬童一裕】

#4.参加者の声④

クラダシチャレンジを終えて

約8ヶ月間、他の学生にはできないとても貴重な体験ができました。御三方の農家さんにお邪魔させていただきましたが、農家さんそれぞれが三者三様で、興味深いことも多かった活動でした。

それぞれの農家さんがそれぞれのやり方で、農業を盛り上げたり食品ロスの問題に取り組んでおられ、そのお手伝いを微力でもさせてもらえたことはとてもいい経験になったと感じています。

自分の中で意外だったことは、農業への参入のハードルの低さと安定性です。特に横浜市はサポートがしっかりしているため、始めやすく続けやすい地域なのかなとも思いました。もちろん大変なことも多いかと思いましたが、お話しも伺った上で苦労は少なくないことがわかりましたが、少しでも興味がある人は農業への入り口に立ちってみるだけでもしてほしいと感じました。意外と肌にあって農業を始められる人も多いのではと思います。

貴重な体験をありがとうございました。



【関東学院大学4年 志村幹太】

半年間の農作業の経験から感じた心境の変化

この半年間、農作業をはじめ、横浜市役所の方々との意見交換会、マルシェでの野菜の販売、報告会などたくさんの経験をさせてもらいました。私自身は農作業の経験が全くなかったのですが、半年間の中で名の農家さんと出会い、色々な形の農業について学ばせてもらいました。印象的だったことは、自分で苗を植えたレタスを2ヶ月後に収穫、袋詰めをし、実際に自分で調理をして食べるという、一連の流れを経験させてもらったことです。

この経験をしてから野菜が育つまでの過程を想像するようになるなど、野菜や農作業に対する姿勢、意識を大きく変えることができました。学生同士で行っていたミーティングでは、農作業を経験していく中で感じたこと、変化をみんなと常に共有し意見を交換することで、成長していくことができました。今後も食品ロス、地産地消、都市農業という、この半年間考えてきたキーワードを忘れずに生活して行きます。



【昭和女子大学4年 金子愛奈】

「農業=田舎/稼げない」じゃない！

今回横浜のクラチャレに参加して、印象的だったことが2つあります。

1つ目は、横浜という都会のイメージがあるところでも農業が存在していたことです。私は地方出身であり、「農業=地方」のイメージが大きかったため、非常に驚きました。また、少なくとも私たちがお世話になった3農家さんは皆さん「農業は稼げるものだ」とおっしゃっていました。農業=稼げない、収入が少ないと思っており、私の中でお金を稼ぐこととはほど遠いところに農業は存在していたため、ビジネスの視点から考える農業というのは新たな視点でした。

2つ目は、地方農業とは違う、都市農業ならではの特徴があったことです。地方とは異なり、農業が観光化していたり、消費者との距離が近いことなどが特徴的でした。

横浜でも農業ができて美味しい野菜が採れることは、メリットがたくさんあります。このことをもっと多くの人に知ってほしいなと思いました。



【立教大学4年 川原紀春】

横浜市における農業の可能性と自己の成長

クラチャレに参加する前は「フードロスは解決されるべき社会問題の一つである」という漠然とした印象しかありませんでした。しかし実際にこの半年間で農作業や意見交換会、マルシェの開催を経て、フードロス並びに都市農業や地産地消についての考えや印象ががらりと変わりました。長期で関わられた分、幅広い分野の方々とお話ができ、農家さんの努力や行政の積極的な関わり、TSUBAKI食堂などその他団体の方々などの取り組みを知り関わることができました。横浜市の農業にはまだまだ可能性があります。

また、経験を重ねることで自分自身にも成長を感じられるシーンがありました。視野が広がり、考えついたことを行動に移す感覚、社会人の方々との協力して何かを成し遂げる力が鍛えられ、自己の成長に繋がったと感じております。



【関東学院大学3年 宮坂悠一郎】

農家さんへのイメージの変化

私は、今回のクラダシチャレンジで人生で初めて農家さんと直接話す経験を積むことができました。そしてこの経験は自分にとってすごく貴重なものだったと感じています。3人の農家さんから農業への思いや前職に関するお話などを直接伺えたことで、農家さんを「野菜を作る人」ではなく「一人の大人」として捉えるようになったからです。当たり前前のことですが、自分たちが普段手に取る野菜の生産者にもそれぞれ家族が居て、農業への熱い思いがあることを改めて感じられました。

この学びを忘れず、野菜の大きさや価格だけではなく、野菜の生産者のことまで配慮した消費生活を心がけようと思います。



【明治大学3年 福島明日夏】

#4.参加者の声⑨

農業についての先入観

私の祖父の実家が農業をやっていたり、祖父自身も本格的な家庭菜園をやっていたり、実家の周りにも畑が沢山あったりというように、昔から農業は身近な存在でした。しかし、地元と違い都会である横浜に畑があるということは知りませんでした。お世話になった3人の農家さんの畑は、いずれも市の中心部から電車やバスで30分～1時間ほどで行ける場所でした。この事実から、横浜ではほとんど農業はしていないという先入観が見事に砕け散りました。そして、農家さん達はそれぞれ農作物の作り方や大切にしていることが違っていました。農業をするならこれをしてあれをして...と大体みなさん同じような事を同じようにしているという先入観がありました。それも間違っているということに気づくことが出来ました。

今回のクラチャレで農業のことはもちろん、食品ロスや地産地消についても多くのことを学びました。半年間があつという間に過ぎ去っていったような気がします。貴重な体験をさせていただいた農家の皆様、横浜市や株式会社クラダシの皆様には本当に感謝申し上げます。



【関東学院大学3年 杉山志穂里】

クラチャレでの経験を通して

この半年間の活動は非常に学びのある経験となりました。クラチャレに参加するまでは、食品ロスや地産地消という言葉自体は知っているものの、きちんとした理解はできていない状態でした。しかし、それぞれ異なるスタイルをもった農家さんのもとでの実際の農作業や意見交換、高い関心や問題意識をもった参加者の方々との日々のミーティングを通して、消費者・生産者・行政など複数の視点から食品ロスや地産地消について考え、理解を深めることができました。

実際に、今までは買い物において「安さ」を最優先していたのですが、活動を通して「産地」や「期限」を意識して買い物するように変化しました。今後の生活でもクラチャレでの学びを忘れずに過ごしていきたいです。



【横浜国立大学2年 鈴木大智】

活動を通して

半年にわたる活動では、それぞれ農業スタイルの異なる農家さんにお世話になりました。正直、人によってここまで違うものかと、驚いてしまいました。横浜という都市部だからこそ実現可能な農業については、この活動に参加しなければ分からないままだったと思います。農家さんと食品ロスについて話していて、複数の視点で考えることができました。今までは、「少しでも安く売っていたら、規格外品も買うのに。」と、消費者の視点でしか考えていませんでした。しかし、実際に農家さんのお話を伺い、「規格外でも安くなくていいのに」「規格外品を安く買うなら規格品も買わないとな」などと考えるようになりました。生産者側の視点が自分の考えに少しでも加わったと思います。良い経験となりました。



【横浜国立大学2年 柴田夕奈】

#5. 事後報告会

第18回社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」 in 和歌山県すさみ町と合同で、参加者による事後報告会を行いました。

■日時: 2022年10月5日 16:00-18:00

■場所: クラダシオフィス・オンライン配信

■参加者: 「クラダシチャレンジ in 和歌山県すさみ町」参加学生
「クラダシチャレンジ in 神奈川県横浜市」参加学生
横浜市関係者の方々(市職員 / 参加農家)
すさみ町関係者の方々(シェアローカル / 町職員)
積水ハウスの方々
クラダシ社員

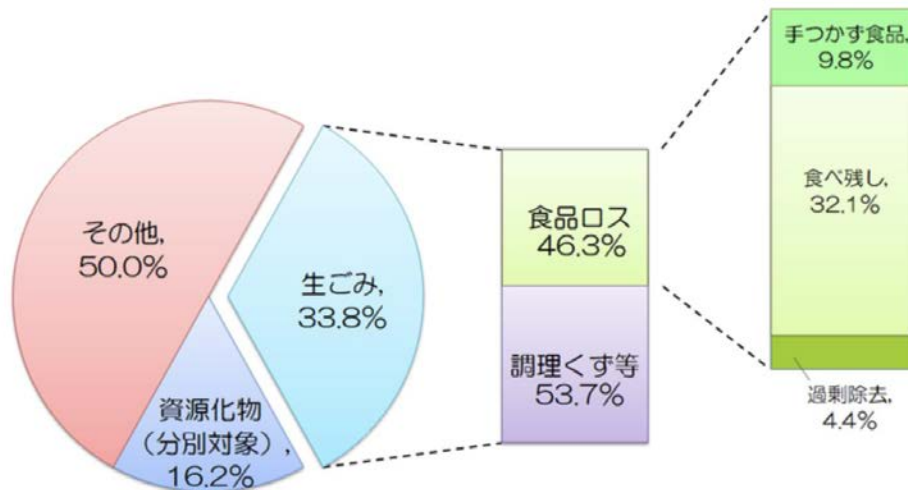
■目的: 参加した学生が、現地の方との交流・収穫 / 漁業支援の活動を通して見出した課題への解決策を提案する



横浜市の家庭から出るフードロス量

年間約93,000トン

1人あたりおにぎり約250個分



クラチャレでの学び

実際に生産現場に行き、自分で体験することでフードロスに対する意識が高まった

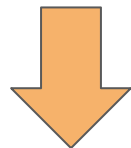
必要以上にスーパーで野菜を買い溜めすることがなくなった

農業に触れることで環境問題に対する意識も変わった。プラスチック削減

アルバイトの時でもロスを出さないように意識し始めた

私たちが考えたこと

フードロス解決の一步として、
実際に生産現場に足を運んで体験することが大切



農業体験の機会を増やす

私たちの提案

「**会員制**クラダシ農業クラブの発足」



「**会員制**クラダシ農業クラブとは」

1回定員4名

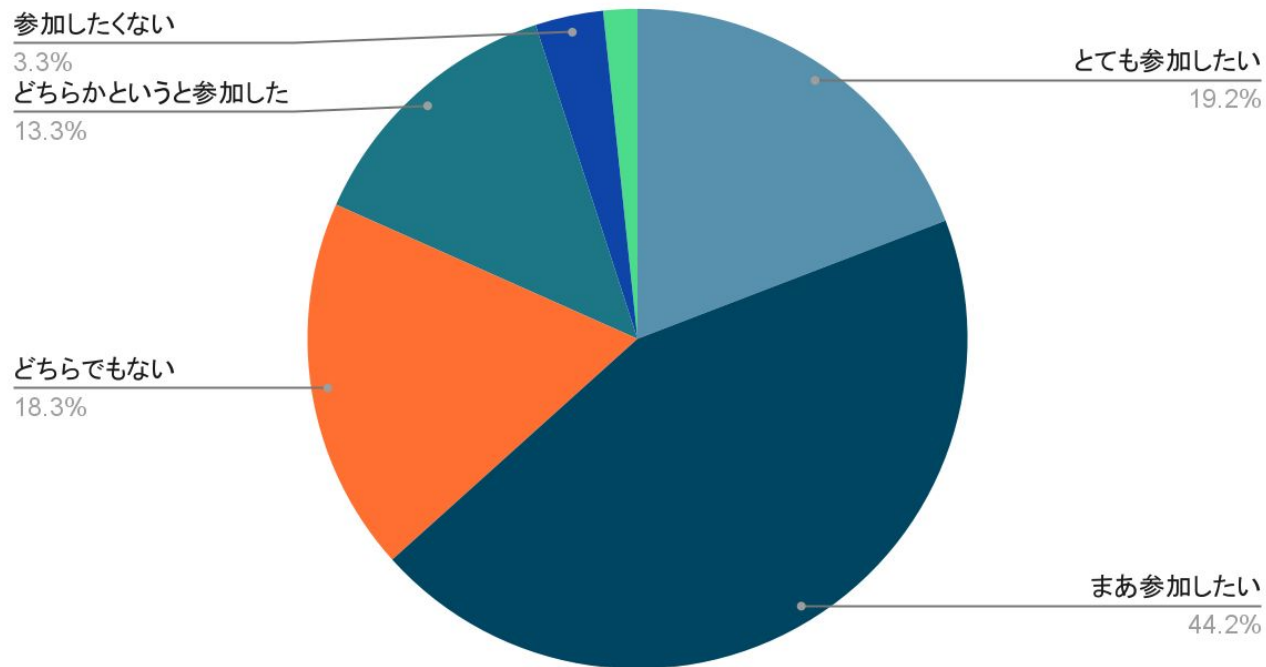
植える→収穫まで
のいいとこ取り

横浜市 **×** クラダシ
月会費制
新たな出会いに
つなげる


野菜のお持ち帰り

行きたい時だけ 気
軽に予約

■社会人向けの農業体験があるとしたら参加したいですか？（10代~40代）



■回答者の声:とても参加したい、まあ参加したい(63.4%)



気分転換



学び

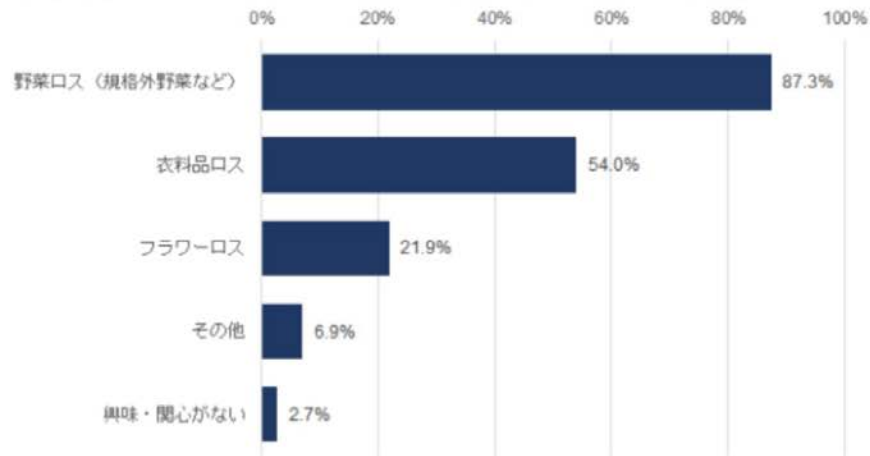


近場

- 募集媒体: Kuradashiサイト
- 対象者: Kuradashiユーザー層

7-1.あなたはフードロス以外でどのような「ロス」に興味・関心がありますか。(n=9,705/MA)

「野菜ロス（規格外野菜など）」がもっとも多く、87.3%の方が興味・関心を持っています。以下の選択肢の中では、日常生活において一般的に、花や衣料品と比較すると野菜の購入頻度の方が高いことから、興味・関心の度合いもより高くなっていると推察されます。



政策立案

- 午前/午後/フル: 半日1,000円、フル1,500円
- 月会費: 6,500円(野菜代:、諸経費:20%)
- 紹介による特典: 体験料半日 ✖2、フル ✖1無料券(両方)
- ジュニア会員: 3,000円
- 農業: お試し半日プラン **体験500円**
- 毎週水曜・土曜・日曜

スケジュール

	午前	休憩	午後
フル	10:00-12:00	12:00-13:00	13:00-15:00
HALF(午前)	10:00-12:00	✖	✖
HALF(午後)	✖	✖	13:00-15:00

都市農業だからこそ

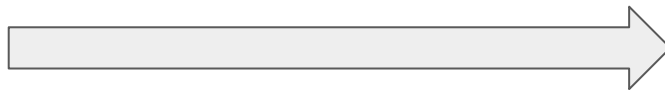
「人が集まる」
「消費者がいる」

スタート

体験型農業



野菜を育てる大変さ



ゴール

食について
考える



人との出会い
意識の変化

期待できる 効果

- 農家さんにとっての**定期的な収入**が見込める
- 農業を**身近**に感じてもらえる(都市農業)
- 農家さんにとっては人手になる
- **予約プラン制**による自由度の高さ
- 子供用の会員制度を設けることで家族での参加による**食育促進**
- **地産地消**促進にもつながる
- 生産現場での体験によって食べ物に対して改めて考えてもらう
(**フードロス削減**)

#6. 総括

社名

株式会社クラダシ

設立

2014年7月

所在地

東京都品川区上大崎3丁目2-1 目黒センタービル 5F

代表者

代表取締役社長 関藤 竜也

事業内容

ソーシャルグッドマーケット「Kuradashi」の運営

URL

<https://www.kuradashi.jp/> (ショッピングサイト)

<https://corp.kuradashi.jp/> (会社HP)

株式会社クラダシは、横浜市以外の自治体でも支援を引き続き行なっております。

ご質問・ご相談等ありましたら、お気軽にお問い合わせください。